

中国都市部における月子をめぐる産育文化の再構築に関する一考察

— 月嫂の果たす役割を中心に —

翁 文静

1 はじめに

伝統の産育習俗はどの国でも、近代化とともに大きく変容してきた。そして現在でも変容し続けている。一方、伝統が色濃く残る局面、例えば産後の養生の習慣は未だにアジアの各地域で広く見られる。中国における産後一ヶ月の養生期間の習俗である「月子」も近代化・医療化の影響を受け、曾てないほど変容しながらも残されている。一昔前の中国では、産婦と新生児が家の中で、実の母もしくは姑の世話を受け、様々な禁忌を守りながら、一ヶ月を過ごしていたが、最近では、親族の代わりに、月子の専門家「月嫂」(yue sao)が登場し、産婦と新生児に科学的なサービスを提供するようになりつつある¹。その背景には、核家族の増加、親族のライフスタイルの変化、失業・出稼ぎ女性の雇用創出政策の推進、医療関係者の不足、都市部と農村部及び都市内部における経済格差などが考えられる(翁 2014)²。さらに、「月子センター」と呼ばれる施設まで作られ、医師・看護師、栄養士、月嫂たちに囲まれ、月子を積極的に享受する産婦も増えてきている。このような産育習俗の変容には、医療関係者などの公的組織の人びと、メディア、そして月子専門家である月嫂など多様なエージェントが関与していると思われる。本研究は、中国都市部社会において産婦・新生児に最も密接に関わる「月嫂」を取り上げ、彼女たちの行う様々な産育実践や語り、及び彼女らの使用する道具や知識・技術に焦点を当て、中国の月子をめぐる産育文化の再構築の過程とそこでの月嫂の役割を探っていききたい。

2 本研究の枠組みと課題、方法

2-1 先行研究の検討と本研究の枠組み

産後の養生習俗の変容、再構築に視点を当てた研究として、松岡と姚による研究調査がある。松岡は韓国における産後調理院(中国の月子センターに相当する施設)に焦点を合わせ、伝統的な民俗習慣が、近代化、市場化とない交ぜになっている様々な現象を探った(松岡2009)。また、姚は中国の月子を以下のように定義した上で、月子の起源・機能を考察し、月子に纏わる最新事情(月嫂、月子センターなど)も紹介した。姚によると、月子は、出産後ほぼ一ヶ月の間、産婦が起居飲食において守らなければならない一連の規範と禁忌のことで、中国で広く見られる一種の産育習俗である。この期間は、新生児に母乳を与える以外は

何もせず、ひたすら食べて静養する。そうしなければならない理由は、ただ一つだけである。それはこの時期は病気になりやすい時期で、しかも病気にかかると、一生治らないという言葉があるからである(姚2009)。これらの研究では、家族の代わりに、産後ケアの担い手(韓国の場合には看護師、助産師、中国の場合には月嫂)としての女性たちの果たす役割の重要性について言及している。その点は示唆に富むものであるが、これらの研究からは、彼女らが現代的な医療知識や科学的なケア知識・方法を用いる一方で、すべての伝統医療や土着的な知識・方法を拒否するわけでもなく、場合によっては積極的に実践しようとしている実態は見えてこない。

こうした月嫂の役割を検討するにあたり本論では以下の二つの視点を設定する。一つ目の視点として、衣、食、住、などの月子や育児をめぐる基本的技術・知識やモノ、それにもとづく月嫂らの実践に注目する。ここでは、長期かつ広範にわたる中国の産育習俗である股割れズボン³、蠟燭包⁴、月子料理⁵などを取りあげるとともに、それらをめぐる月嫂らの行う実践についても見ていく。これらの産育習俗を含む月嫂の行う具体的な実践を検討することにより、伝統的産育習俗の現状を確認するとともに、月嫂による新たな産育の実践の把握もできると考えられる。伝統的及び現代的な産育実践を総合的に見ることを通して、月嫂の独自の月子実践を捉えたい。その際に、月子を伝統、現代といった様々な境界に位置する新たな産育文化、そして、その文化の創出、実践に関わる月嫂をエージェントと見なす視点が必要である。そこで、本論の二つ目の視点として、文化接合の弁証法に基づく視点を提示したい。文化接合の弁証法とは、被植民地社会と西洋の資本主義は、政治的エージェントを通して歴史的な弁証法的相互関係を構成しており、内外の二つのシステムが遭遇するまさにその境界で、接合の弁証法を介し、新たな領域を構成し、新たな文化を形成してゆくという捉え方である(前川2000)。この視点に従えば、新旧、自他という異なるシステム間の境界に新たな産育文化(月子文化)が創出され、月嫂などのエージェントを通して、種々のやり取りがシステム間でなされ、伝統的産育習俗の変化と再構築がもたらされると考えられる。

2-2 研究の方法

本稿で扱うデータは2013年3月から同年の12月の間の4ヶ月間、中国上海市で行った現地調査で得た。調査は上海市H区の月嫂トレーニングセンター(以下ではHouseトレーニングセンターと称する)、同センターと連携するH区の産婦人科病院、及び同センターの月嫂を雇用する産婦の自宅での参与観察とインタビューを中心に行ったものである。調査対象となる月嫂は全員Houseトレーニングセンターの卒業生であり、彼女たちの勤務先、年代、戸籍などの違いを考慮した上で、H区の産婦人科病院に勤務している二人(Wさん、Mさん)、そして、家庭への派遣月嫂のうち、若手、中堅、ベテランそれぞれ一人を選定した(Hさん、Lさん、Fさん)。5名の月嫂のなかで、上海市の戸籍を所有するのが50代のWさん、Mさん、Fさんであり、彼女たちは自宅通勤をしている。それに対して、20代後半のHさんと40半ばのLさんが上海戸籍を持たず、派遣会社の寮に住んでいる。但し、雇用者宅に派遣される場合は、月嫂たちは雇用者宅に住み込む⁶。

3. 月嫂の月子実践とその分析

筆者が上記の5名の月嫂の振る舞いを観察した上で、彼女らの使う技術やその際に登場するモノを大きく衣、食、住、衛生及び医療行為という五つの項目に分類した（表1）。

表1 育児技術とモノの項目表

	技術・技法/知識	技術・技法に関連するモノ	
衣	1、蠟燭包	掛け布団、布	
	2、オムツ交換	紙オムツ、お尻クリーム、股割れズボン、2WAYオール	
食	1、母乳	授乳の仕方	乳首（シリコン製）
		おっぱいケア（マッサージを含む）	漢方薬、キャベツ湿布、搾乳器
	2、ミルク	作り方、飲ませ方	カップ、哺乳瓶、ミルク
	3、月子料理	G社の月子料理 ⁷	黒ゴマ油、生姜、漢方薬湯
家庭的な薬膳、果物料理		漢方薬、果物（ボケの実など）、食材（フナ、鶏等）	
住	寝かせ方	ベビーベッド、揺籠、クッション	
衛生	入浴と新生児マッサージ	ソープ、マッサージオイルなど	
医療	1、新生児臍帯処置、黄疸の観察、薬の服用	お臍絆創膏、アルコール、綿棒、カップ	
	2、会陰の観察と消毒	漢方薬、ウェットティッシュ	

まず、「衣」に関しては蠟燭包とオムツ交換という二つの技術・技法を取り上げる。5名の月嫂らが蠟燭包を行う際に、使用するモノは主に掛け布団、布である。その中で、病院勤務のMさんとWさんは病院の用意した布を使用し、きつく新生児を包むが（写真1）、雇用者の家に派遣された3名は赤ちゃん布団/毛布でやや緩く新生児をくるむ。一方、オムツ交換という技術に関連するモノは主に紙オムツ、お尻クリーム、股割れズボンもしくは2WAYオールなどである。そして、お尻クリームについて、月嫂らは各家庭の用意したモノを使用するが、よい効果が得られない場合には、それぞれ最も効果があると思われるクリームを雇用者に勧める。また、ズボンに関しては、病院勤務の2名は、病院の用意した股割れズボンを新生児に着用させ（写真2）、雇用者の家で働く3名の月嫂は股割れズボンを使うことを拒否はしないが、2WAYオールを好んで使用する。

「食」に関する月嫂らの実践を大きく分けると1の母乳、2のミルク、そして3の月子料理になる。その中の1の母乳をさらに授乳の仕方とおっぱいケアに細分化することができる。授乳の仕方は母子の姿勢、母の手の動き、吸わせるおっぱいの部位などの内容を含む。5名の月嫂が新米の母親に、状況に合わせて、これらの知識、技術を教え込む。また、おっぱいケアは主におっぱいの張り、詰まりの対処方法を指す。一方、母乳がまだ出てない産婦、母乳の少ない産婦に対し、月嫂らがカップで授乳したり（写真3）、哺乳瓶で外国産のミルクを作り飲ませたりしている。そして、3の「月子料理」は「G社の月子料理」と「家庭的な薬膳、果物料理」に細分化することができる。台湾の企業であるG社の月子料理は油物を中心とする伝統的な中国の月子料理と違って、産婦の体調をよく整え、母乳も出やすくなり、加えて、産後の肥満に対する心配もないと言われている。一方、「家庭的な薬膳、果物料理」にはマニュアル的なものは存在せず、それは、各産婦の好みに合わせて、月嫂らが作る薬膳、果物料理である。

本研究では、「住」を住宅、住まいもしくは子ども部屋という広い意味ではなく、新生児の

寝る空間を中心に取り上げる。そこで登場する月嫂らの技法は新生児を寝かせる技法であり、それに関連するモノはベビーベッド、揺籠、赤ちゃんクッションなどである。5名の月嫂は共に横向きに寝かせる方法を取る。その理由は新生児が胃の中の内容物を吐き出し、喉に詰まらせ窒息することをさけるためである。ベビーベッドか伝統的な揺籠かに関しては、月嫂らは雇用主の購入したモノを使用するが、揺籠を与えられても、新生児の発達に悪いからと言い、決して新生児を揺らすことはしない。また、新生児の頭の形を整えるため、新しいクッションを使用する月嫂(Hさん)もいるが、新生児の姿勢を左右変えることで頭のゆがみを防止する月嫂が多い。

新生児の衛生は入浴とその後のマッサージに分けることができる。病院勤務のMさんとWさんは直接、新生児の入浴とマッサージを行わないが(看護師が担当する)、入浴後の手伝いをする。例えば、目薬の投入、臍帯の消毒、着衣などである。一方、Lさん、Fさん、Hさんは水温、室温の調節、新生児衣服や入浴セットの準備から新生児入浴、マッサージまですべて行う。そして、新生児入浴及びマッサージの際に、月嫂らが使用するベビーソープ、マッサージオイルなどのモノはそのほとんどがJJ社(赤ちゃん商品を扱う国際企業)の商品である。

最後の医療行為は新生児に対する医療行為と産婦に対するケアに分けることができる。前者には臍帯処置、黄疸の観察、薬の服用が含まれる。後者は主に会陰の観察と消毒を指す。5名の月嫂の医療行為を見てみると、それほど個人差は観察できず、彼女らのやり方は(月嫂養成の)教科書に書かれた通り、もしくは看護師の教えの通りとなっている。例えば、全員が臍帯処置の際に75%のアルコールと綿棒を使用し、臍の中から外へという手順を踏んで消毒する。そして、薬の服用に関しては、病院勤務の2名がカップを使用するが、雇用者宅勤務の3名が哺乳瓶の蓋、小さいカップ、薬専用の哺乳瓶などを使用する。最後の産婦の会陰の観察と消毒は主に産婦の体を拭く際に行われる行為であり、月嫂らが病院から処方された漢方薬をウェットティッシュに付けて、お湯で薄めてから、傷口を軽く拭く。

以上、衣、食、住、衛生、医療などの月子に纏わる具体的な場面を描写し、月嫂の独自の月子実践を見てきた。月嫂らは、布オムツ、揺籠など伝統的な産育習俗を排除する場合もあれば、キャベツ湿布、薬膳のような土着医療を伝承する場合もある。それと同時に、彼女たちは積極的に現代的・西洋的産育要素を自分の実践に取り入れている。新生児の衛生(入浴とマッサージ)、新生児及び産婦への医療行為はその好例である。月嫂はこのように、対立的に見える伝統と現代、西洋と土着といった要素を自らの状況に合わせて、矛盾なく必要なものを選択し、独自の月子実践を構築しつつある。

4. 今日の月子文化における月嫂の役割

以下では、月嫂を新しい月子文化のエージェントと見なし、彼女たちが月子文化の変容、再構築に果たす役割について1、医療化、商業化/市場化の促進、2、月子文化の維持と創出、3、世代間の仲介者としての役割の3点に分けて、分析・考察を行う。



写真1 病院での蠟燭包

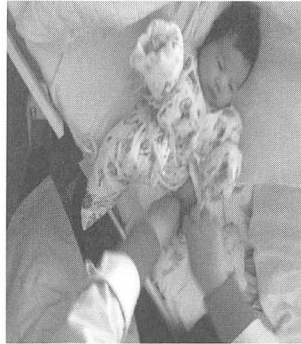


写真2 病院の股割ズボン



写真3 コップでの授乳

(1)医療化、商業化/市場化の促進

ここでは、月嫂らの果たす役割の一つ—医療化、商業化/市場化の促進について検討を行う。今日の上海においては、ほとんどの出産は、近代医学に基づく病院などの医療設備が整った場所で行われている。1995年の「上海衛生年鑑」の統計データによれば、同市における病院出産率は全体的出産の99.8%も占めている。産後の養生である月子は、妊娠や出産ほどには医療行為を必要とするとは見なされていないが、医療化が進みつつあると言えるだろう。新生児及び産婦への医療行為（臍帯処置、黄疸の観察、会陰の消毒など）を行う月嫂を見れば、月子という伝統的な養生習俗への現代医療の介入を認めなければならない。それだけではなく、衣、食、住、衛生の側面においても、現代医療の影響が見受けられる。病院現場で働く月嫂MさんとWさんは常に医師や看護師らの診察、看護者と産婦・新生児とのやり取りを間近で見て、彼らから様々な医療知識や技術を学んでいる。例えば、コップでの授乳に関しては、彼女らが看護師に教えられ、異なる姿勢や身体技法をとっているが、共通する知識と技術も持っている。共通する知識とは、一気に授乳するのではなく、一口一口授乳すること、新生児の首を自分の掌で支え、自分の親指、人差し指、中指で新生児の両耳を軽く抑えること（新生児が眠くなった時、指を動かし起こすため）、授乳後必ずゲップをさせることなどである。もちろん、彼女らのこのような技術の背後に、新生児の身体、臓器（胃）の特徴、発達についての医療知識が隠されている。授乳の医療化に関して、もう一つWさんのエピソードがある。ある日、Wさんが病室を視察する際に、ある父親が「わが子は大人しく良い子だよ。一晩ずっと寝て一回も泣かなかった」と自慢そうに言った。Wさんはその父親に「それは自慢できることではなく大変なことだ。普通の新生児は4,5時間ごとに一回ミルクを飲むよ。一晩飲まないのがおかしい。私の言うことを信じないなら、医師や看護師に確認してください。昔同じことが起こったことがある。だから、私はよくわかるよ」と説得した。Wさんはこのように医療関係者を自分の後ろ盾にすることで、月嫂の正統性、専門性を示そうとした。

また、雇用者の家庭に勤務する3名の月嫂も全員病院で研修を受け、医師や看護師から直接の指導を受けたことがある。Fさんは小児科医師から新生児の応急処置を学んだ。Lさんはある看護師からシリコン製の乳首を扁平乳頭や陥没乳頭の上に置き、新生児に吸わせるという方法を教わった。また、最年少のHさんは看護師の行う新生児への入浴法を見て、臍

帯の消毒方法や、お臍絆創膏などの商品を知ることが出来た。元々5名の月嫂は仕事に就く前に、全員月嫂養成訓練を受けたことがある。この訓練の内容の多くが欧米的な産科、小児科の知識に基づくものであり、講師たちの多くも医師、看護師、助産師である。このように、月嫂らは講師の指導や月嫂養成訓練などを通して、豊富な産育知識、技術を得ることができる。そして、病院で働くかもしくは研修しているうちに、さらに医療的な知識と技術を身に付けることができる。Wさんの話を引用すれば、月嫂らは「半分看護師（中国語の半個看護師の意識）」ということになるだろう。

現代中国の都市社会の出産、育児のもう一つの特徴は、産育の商業化/市場化と呼ぶ現象である。現代は消費社会、ポストモダンの社会とも言われ、さまざまなモノが消費の対象となる時代だが、出産、育児とその周辺も例外ではない。伝統的な「月子」の期間中、産婦の世話は、主に姑をはじめとする家族や親族によってなされてきた。しかし、近年の上海では、「プロの手を借りたい、科学的な方法で月子を過ごし、新生児を育てたい、親たちに負担をかけたくない」という考え方が若い世代の間で広がりつつあり、また、様々な理由で、孫の世話をしたくない祖父母も現れている。そこで、月嫂と月子センターというかつてない職業やビジネスが生み出されている。月嫂は、90年代に新しい職業として登場し、出稼ぎ女性やリストラされた女性たちの就業上の受け皿としての役割を果たしているが、最近では、ある程度教育を受けた高卒の女性や、20代後半もしくは30代前半の若い女性も多くなってきている。また、月嫂は家政サービスと位置づけられているが、一般の家政サービス員⁸より給料は断然高く、資格も得ることができるため、女性の職業として今では絶大な人気を博している。目下、中国において約5万人が月嫂に従事しており、主に大中都市に分布していると言われている。上海市人力资源和社会保障局の公開する「職業訓練ランキング」によると、月嫂養成訓練を受けた人数は2012年に6507人にも上り、全上海市の職業訓練ランキングの4位を示している⁹。

また、現代の消費社会においては、妊産婦が消費者として積極的に妊娠・出産グッズを購入することが期待されている。しかし、多くの新米母親及び家族らは数多くの商品について、何か必要なのか、どれが一番良いのか、といった様々な疑問を持つ。そこで、彼らは産育専門家である月嫂たちからの的確な情報を得ようとしている。雇用者が月嫂らによく聞く質問はオムツ、お尻クリーム、哺乳瓶、ミルク、ベビーソープ、マッサージオイルなど幅広い育児用品についてである。月嫂らは自分の知識や経験に基づきながら、新生児と各家族の状況に合わせて、商品に関する情報及び使用方法を教える。

例えば、オムツに関しては、月嫂らは「手間がかかる」、「ズボンまで濡れ、病気になりやすい」、「交換を怠るとお尻がかぶれやすくなる」といった理由で伝統的な手作り布オムツを拒否し、紙オムツを積極的に勧める。中でも、日本のK社、M社とアメリカのP社の紙オムツが最も通気性がよくかぶれにくいと月嫂らに認識されている。オムツに関する月嫂らの最も際立った技法と言え、どんな汚れでもウェットティッシュ一枚で綺麗に新生児のお尻を拭くことである(Wさん)。一方お尻クリームについては、月嫂らが漢方のクリーム、ドイツ産クリーム、そして、ある月子センターしか入手できない秘密のクリームなど様々な商品を雇用者に勧めた。Lさんがお尻クリームを塗る際に気遣うことは、新生児の性器に触れ

ないことである。彼女によれば、性器に直接クリームを塗ると、そこの皮膚が黒くなるという。そして、月嫂らのお勧め哺乳瓶はすべて外国産のものであり、中でも日本、ドイツのものが最も人気がある。例えば、Mさんはあるドイツ産の哺乳瓶を好み、その理由は天然ゴムの乳首の形にある（ママの乳首のようにカタチを変えるゴム乳首）。Mさんはこの哺乳瓶は、新生児にとって最も噛みやすく吸いやすいものであると言い、雇用者に推薦した。ミルクに関しては国産の食品に対して不安があるため、月嫂らは外国産のミルクを勧めている。最後のベビーソープ、マッサージオイルなどの商品に関しては、国際企業JJ社のものが一番多く月嫂らに勧められる。このことは、JJ社が赤ちゃん入浴及びマッサージのマニュアルを作り出したことに関連すると思われる。月嫂らはマニュアルに従い、JJ社の商品を使い、新生児を入浴させたり、マッサージをしたりしていた。JJ社の商品を買って使用するFさんがある雇用者の家で新生児マッサージを行おうとする際に、産婦らの用意した伝統的なグリセリン（中国語では甘油 gan you と書く）を拒み、JJ社の専用マッサージオイルを購入するように指示したこともある。

以上のように、中国の伝統的な出産習俗と商業的なサービスが出遭ったところに月嫂らが現れ、彼女らは月嫂養成訓練や病院研修・勤務を通して、西洋医療を中心とする知識、技術を積極的に吸収し、また、これらを産婦や家族とのやり取りの中で、各家庭へと伝えていくことが分かった。家族から見れば、新生児と産婦の健康を何より一番重要だと考え、そのため、ささやかなことでも医師や看護師に確認や相談を求める傾向にある。しかし、医療関係者が限られており、時間的にも、検査の時しか会えないのが現状である。そこで、気軽に何でも教えてくれる医療知識を持った人である月嫂に助けを求めよう。また、月嫂らは産育に関わる様々な商品の情報を持ち、これらの商品を勧めることによって、産婦と新生児の抱える問題を解決するだけでなく、自分の仕事を楽にすることもできる。言い換えれば、月嫂は雇用者（患者）と医療関係者の間に存在する「半分看護師」であり、豊富な商品の情報を提供してくれる一種のカリスマ的な存在である。

(2)伝統の維持と創出

月嫂は産育現場における医療化、商業化/市場化を、実践を通して、各家庭において促進する役割を果たすだけでなく、伝統或いは土着な知識・技術を維持したり、場合によっては創出したりすることも多々ある。以下では、蠟燭包、家庭的な月子料理、おっぱいのケアという三つの例を取りあげる。

まず、新生児の蠟燭包である。病院勤務のMさんとWさんは生後一日目の新生児の両腕を伸ばし、体にくっ付く形で白い布できつく縛る（写真1）。一方、家庭勤務の3名の月嫂らは新生児布団/毛布でやや緩く新生児をくるむ。包み方はまず布団/毛布を菱形に広げ、新生児の頭を上の方の角に合わせて置き、そして、下の角を新生児の足の所から上に向けて折りたたみ、最後左右の両側の布団/毛布を新生児の体に沿って包む。その際に、病院での蠟燭包と違って、新生児の両手を固定することなく、自由にさせている。そのため、蠟燭包で新生児に授乳する際に、新生児が自分の手で哺乳瓶や月嫂の手を触ったこともしばしばあった。その触れ合いが月嫂と新生児のコミュニケーションの一つであると考えられている（H

さん)。一昔前には蠟燭包が新生児のがに股と風邪を防ぐのに役立つと思われていたが、今はむしろ「きつく縛ることで、新生児に安心感を与えたい」(Mさん、Wさん)、「抱っこしやすい」、「寒さ対策」(Hさん、Lさん、Fさん)などの意味合いが強い。伝統的な育児慣習である蠟燭包の形がいまだに受け継がれているように見えるが、その意味合い、理由は少しずつ変容していると言えるだろう。

また、蠟燭包に関連するもう一つの伝統的な習俗—「捂(wu)」についても触れてみる。捂(wu)とは新生児の体温を維持するため、できるだけたくさん着せ/被せることである。中国では近年、捂よる熱中症や脱水症事故がたびたび発生し、テレビや新聞などのメディアでも大きく取り上げられている。しかし、育児現場では、今でも新生児を蠟燭包にし、さらにその上に布団をかぶせる保護者が数多く見られる。これに対して、月嫂らは医療関係者と同じ立場に立ち、断固反対の姿勢を見せている。例えば、Mさんは、室温28度以上の病室に入り、新生児の授乳を行おうとする際に、蠟燭包にされ、さらに布団に覆われた新生児を見ると、すぐに祖母に「捂(wu)はダメ、逆に病気にさせるよ。貴方たち大人は薄い半袖のシャツ一枚を着ているのに、なぜ新生児を捂しているの？気持ち悪いに決まっているでしょう」と説教し、半強制的に脱がした。このように、月嫂らは現代医療と絡ませて、伝統的な育児方法を維持したり、逆に拒否したりする。

月嫂らが伝統的或いは土着的な知識・技術を維持する「家庭的な月子料理」と「おっぱいのケア」の例についても触れる。病院勤務のWさんとMさんは直接月子料理を作ることはしないで、雇業者にアドバイスをすることが多い。例えば、生後2日目の産婦に家族が伝統的な温かい卵入りの甘酒を食べさせようとした際に、Wさんに止められた。Wさんは、甘酒は母乳の量を増やす効果があるものの、生後2日目の産婦に飲ませると、かえって、乳管のつまりを引き起こす恐れがあると説明した。一方、家庭勤務の3名の月嫂は料理を作ることも多かった。Fさんは一日3回の料理と2回の補食を作る(朝食は温かいミルクと中華饅、10時の補食は温かい卵入りの甘酒、昼食はフナのスープと白ごはんと野菜、午後の補食はもち抜きぜんざい、夕食は豚足スープとごはんと野菜などである)。彼女の作った月子料理のどれも伝統的なものであるが、産婦の状況に合わせて新しい食材も加える。特に、母乳不足の産婦にポケの実(近年女性の人気果物)を入れた料理を多用している。Fさんは基本的に伝統的な月子料理に従い、新しいG社の月子料理に対して、台湾の料理は中国人に合わないという理由で拒否する姿勢を見せている。それに対して、LさんはG社の月子料理を全面的に受け入れるが、G社の料理が高額のため、注文するのではなく、G社料理のメニューを模倣する方法をとっている。さらに、Lさんは漢方薬の知識をある程度把握しており、乳管開通のため、料理の中に「通草」などの薬草を入れたりもしている。一方、最年少のHさんは伝統的な卵料理と果物を多用している。彼女は産婦に一日1-2個の卵を食べさせ、補食の際に、レンジで温めたバナナ、お湯に入れたリンゴなどを作った。このように、月嫂らは伝統的な月子料理を少し変容させながらもその原型を留めている。月子料理における彼女らの共通認識は伝統的な「冷たい食べ物を産婦に与えてはいけない」という伝統的な考え方と「母乳を増やすために食材と薬膳を活用すること」である。

次に、おっぱいケアに関する技法やモノについて説明する。月子中の難問の一つとされる

おっぱいの張り、つまりに対処するため、月嫂らは様々な技法や道具を駆使する。病院勤務のMさんとWさんがよく行う方法はキャベツ湿布と漢方薬を飲ませる方法である。キャベツ湿布とはキャベツ何枚かをはがし、張って熱くなるおっぱいの上に重ねてかぶせることである。それと同時に、彼女らは産婦の乳管開通のため、鹿の角で作った漢方薬に紹興酒を混ぜ、産婦に飲ませた。家庭勤務のFさんとHさんはこの二つの方法を知っているが、産婦を興奮させる副作用があると言い、積極的には取り入れず、代わりに搾乳器を使用する。一方、Lさんは搾乳器を拒否し、新生児に母乳を吸わせることを最優先させている。Lさんの口癖は「新生児は最良の天然の搾乳器」である。このように、5名の月嫂らがそれぞれ異なる方法、技術、モノを持ちながらも、全員おっぱいマッサージを積極的に行う。彼女らの行うマッサージの手法は主に押す、もむ、つまむ、指先でツボを突くなどである。マッサージは部位によって主に乳房マッサージと乳頭マッサージに分けられる。乳房マッサージを行う際に、月嫂らが掌と5本の指で乳房の基底部をよく動かし、硬いところを見つければ、円を描くように指先で揉んだりする。但し、Lさんは他の月嫂より多様な手法を使う。例えば、おっぱいの上下、左右を両手ではさみ、乳房の基底部から乳頭の方向へと揉みながら動かす。また、乳管開通のため、五本の指を広げ、おっぱいを基底部から乳頭へと、指先でブラッシング技法も実施した。さらに、Lさんはツボの知識を持ち、おっぱい関連のツボも押ししたりしていた。一方、5名の月嫂らが行う乳頭マッサージは主に、親指と人差指で乳頭をつまみ、乳房に向けて下へ圧迫することによって、母乳を出す手法である。Lさん以外の月嫂もみんなこの技術を使用するが、Lさんはより複雑な十字法も使いこなす。十字法とは、2本の指で乳輪を乳頭から乳房へ向けて、十の字を書くように引っ張ることである。Lさんは催乳師の資格を取っており、このようにより複雑な技法を使うことができる。

G社の月子料理と催乳師資格を別の視点、つまり伝統の創出という視点から見ることできる。伝統的な月子料理は決まったメニューなどはなく、最低限の禁忌（果物・野菜など冷たいものや辛いものを避けること）さえ守れば、後は各地方、各家庭に任せる所が多かった。おっぱいマッサージは特に漢方の理論に依拠するのではなく、個々人の経験の基づく手法であった。しかし、G社の月子料理と催乳師資格は共に、近年産育の商業化、市場化に伴い、特化され、新しい分野として樹立されつつある。特に催乳師は企業レベルの資格のみならず、新たに設けられている国家資格を取ることもできる。言い換えれば、G社の月子料理と催乳師という「伝統」は、欧米・現代的な知識・技術と共存し、それを取り入れつつ、作られていくのではないだろうか。そして、月嫂らはG社の月子料理を模倣したり、催乳師資格を取ったりすることで、創出した伝統に積極的に関わり、この作られる伝統をさらに普及させることに一役買うことになる。つまり、彼女らは作られる伝統の実践と推進の役割を果たしているとも言えよう。

(3)世代間の橋渡し

この節では、中国の出産、育児の一つの特徴とも言える世代間の関わりについて考察してみる。落合は中国系社会では祖父母を中心とする親族が積極的に育児に関わり、(中略)老親による育児援助は、後の子どもによる老親扶養とセットだと意識されていると指摘した(落

合2007)。一方で、シニア世代は育児の強力な支援者でありながら、若い世代と違った考え方や育児方法を持っている。月子においても、厳しい禁忌に耐え(例えば、「歯を磨いてはいけない」、「冷たい水に接触してはいけない」、「風に当たってはいけない」など)、月子を過ごしてきたシニア世代と現在の科学的な月子を求める若い世代との間には様々な矛盾や葛藤が生じる。産育の専門家である月嫂らはしばしば二世代之間に立って、彼らの矛盾を解消するように期待されている。月嫂らがよく受ける質問の一つは「若い世代の産婦はシニア世代と同じく一ヶ月シャワー、歯磨きをしてはいけないのだろうか」である。月嫂らはきちんと理由を説明したり、医療関係者の指示を提示したりする。つまり、今と昔とは違う。生活が豊かになることで、暖房などの設備の整った自宅で入浴しても、風に当たることなく、産婦の健康に悪い影響を与えることはないだろう。そのため、月嫂養成訓練の教科書に書いてある通りに、自然出産の場合大体1週間後、帝王切開の場合には10日間過ぎれば、産婦が入浴しても問題はない。しかし、短時間で済まし、入浴後に髪を完全に乾かさないと風邪を引く恐れがある(Wさん、Fさん、Lさん)。歯磨きに関しては、彼女らは「医療関係者の話によれば、歯磨きしないとかえって産婦の歯の健康を損なう。但し、普通の歯ブラシではなく、子ども用もしくは産婦専用の柔らかい歯ブラシの使用を勧めたり(Fさん、Hさん)」、「歯磨きの代わりにうがいもしくはガーゼで歯を拭いたり」と助言する(Lさん、Wさん)。

月嫂らはこのように若い世代を支持するが、すべての面においてというわけではない。自分の年齢に近いシニア世代の立場に立って若い世代を批判したり、説得したりする場合も多々ある。例えば、Fさんはある産婦が熱いスープを口で吹く行為を見かけると、直ちにそれをやめさせ、その理由はお腹の中の気が貯まるからだと言った。その場面を見た母方の祖母が産婦に対して「私が吹かないほうがよいと前に言ったことあるだろう。月嫂もそう言うなら、間違いなし。聞いてください」と強調した。また、Lさんが新生児の乳頭を引っ張るというシニアの行った育児習慣に対して、批判することなく、産婦に対して「貴方の乳頭が陥没しており、自分の娘に将来同じ悩みを抱えてもらいたくないなら、彼女が新生児のうちに、乳頭を引っ張ってください。ただし、無理のない程度にやればよい。シニア世代は孫思いでそういうアドバイスをしているだけです。祖母の気持ちをわかってあげてください」と助言した後、優しく実践した。このように月嫂らは新しい情報を吸収する若い世代と同じ意見を持つことが多いが、年齢的に近いシニア世代の言い分にも耳を傾ける。世代間のトラブルを対処する際に、月嫂の心がけている掟(原則)とは決して二世代之のどちらの悪口も言わず、家族の中の和を大事にすることである。つまり、月嫂は伝統・土着と現代・科学の知識と技法の両方を用いて、異なる価値観や育児方法を持つ世代間の架け橋の役割を果たしていると言えよう。

5. まとめと今後の課題

本稿では、月嫂による実際の仕事場面の観察を通して、彼女たちの独自の産育実践のあり方を見出した。月嫂たちは新旧(現代と伝統)、自他(土着と西洋)といった様々な要素から自分の状況に合わせ、これらを選び取り、矛盾なく一つの産育実践に融合させていると言え

る。しかし、月嫂たちが全く同じ産育実践を行っているというわけではなく、勤務先、年代の差によって多少の違いも見られる。病院の場合、月嫂が医療関係者の指導をうけること、病院食などのサービスが提供されることなどの理由で、西洋医療に基づく産育実践（カップによる授乳、薬の投与など）が多く見られる。それに対して、家庭勤務の月嫂たちは医療行為のほか、母子ケアに付随する洗濯、料理、片付けなどの家事もこなしている。また、月嫂の年代の差については、20代と40代の比較的若い世代が新しい産育知識・技術を積極的に取り入れる傾向が見られる。例えば、Hさんが赤ちゃんクッションを使用すること、LさんがG社の月子料理を模倣して作ることなどである。しかし、調査対象者である5名の月嫂の間の戸籍差については違いが見られない。

以上のように本稿では月嫂らの具体的な実践に注目しながら、彼女たちを異なるシステム間の境界にいるエージェントと見なし、産育文化の変容や再構築において彼女たちの果たす役割についても考察を行った。ここでの異なるシステムとは新旧（現代的な産育法と伝統的な産育習俗）、自他（土着と西洋）のことである。月嫂らはこのような二重のシステムの境界に位置しながら、それら諸要素や諸領域間の調整や橋渡しをするのである。結果として彼女たちが果たしているエージェントとしての役割は以下の三点にまとめることができる。1、月嫂は産育の医療化（主に欧米医療を中心とする）と産育の商業化/市場化を促進する役割を果たしている。彼女らは欧米医療に基づく知識や技術を月嫂養成訓練や病院研修・勤務などの実践経験を通して吸収し「半分看護師」になることで、自分のやり方や知識の正統性、科学性、専門性を産婦や家族に対し説得的に示している。また、月嫂らはメディア、医療関係者、場合によっては雇用者からも様々な商品やサービスの情報を手に入れ、産婦らに提供し、使用することで、自分の仕事を効率化するだけでなく、産婦、家族らの抱える様々な問題を解決している。2、月嫂らは中国都市社会における産育の医療化、商業化/市場化の中で新しい技術や知識、あるいは道具を積極的に取り入れる場合もあれば、それに抵抗し、在来の土着の文化要素を維持する場合もある。ここで注意すべき点は、月嫂らが昔と変わらぬ伝統的なやり方を堅持しているわけではなく、緩い蠟燭包とその現代風の意味付け、月子料理に新素材の使用、捂（wu）に対する批判的拒絶など、常に産育の技術や知識における交渉的な再構築を行っているということである。3、月嫂らはこのように産育の新旧、自他の諸要素を戦略的に採用し、それを自らの仕事に資するものとして用いるだけでなく、シニア世代と若い世代の対立にも「仲介者」として積極的な役割を果たしている。

最後に、本稿では新しい産育（月子）文化生成のエージェントとしての月嫂の観察や語りを中心に記述したが、彼女らを雇う産婦及び家族ら受け入れ側の視点については今後の課題として残されている。雇用者側の受け入れ方や月嫂との交渉の直接的場面に関する質的検討を重ね合わせることによって、中国都市部の月子をめぐる産育文化の再構築と動態のさらなる全容が明らかにできると考える。

注

1、中国都市部における月嫂の利用率、利用する階層について、周、張、苏他の先行研究があげられる。

周が上海市L区の月嫂会社に焦点をあわせ、月嫂を雇用する階層が殆ど経済的に余裕のある「一人っ子」の親であること、1999、2000年に、出産する産婦の内、40%の人が月嫂を必要とし、12.5%の産婦が月嫂を雇わなければならない状況にあると指摘している(周2002)。また、北京大学人民病院の張が月嫂業界の現状、問題に言及し、同市における月嫂の雇用者の殆どが若いホワイトカラーであると指摘している(張2007)。さらに、苏他が広州市の199名妊婦にアンケート調査を行い、月嫂の需要率が62.81%に上ること、これらの妊婦らの家族の特徴が、80、90年代生まれの一人っ子である若い世代で、収入は7000元以上の共働きの家族であることを指摘している(苏他2013)。筆者は上海市内最大の月嫂派遣会社のスタッフにインタビュー調査を行い、当派遣会社との連携病院における月嫂の利用率が70%に上ることが明らかになった。

- 2、月嫂は80年代末から90年代初めにかけて中国の各都市で出現し、個々の女性が世話を必要とする親戚もしくは近隣の産婦宅で出産の手伝いをしたことが始まりと言われている。90年代以降、月嫂の需要の高まりと相まって、月嫂の規範化・資格化が進められてきた。しかし、月嫂に関連する様々な記事が示す通り、2006年、2008年、2012年の出生ラッシュに伴い、「月嫂荒(月嫂嚴重不足)」が中国都市部の一つの社会問題となり、月嫂の月給も2000年の1000元から、2007年の3000元、さらに2014年の8000～12000元に上りつつある。例えば、「金猪年”传说加剧生育高峰 沪月嫂月薪升至3600元(6年に一度の黄金の豚年、出生ラッシュ、上海市の月嫂の月給が3600元まで上昇する)」(2006年10月21日付 晨报視野)、「龙年月嫂变“金嫂” 平均月薪升至8000元(辰年出生ラッシュ、月嫂平均月給8000元に上る)」(2012年02月14日付 和讯網)、などである。上海市家政協会センターの委託派遣会社によると、2014年に上海市における月嫂の人数は3万人に上り、月嫂荒(月嫂嚴重不足)が解消され、同年同市に出生するすべての新生児にサービスを提供することが可能となっている(解放日報2014年4月16日)。
- 3、股割れズボンとは中国語で開裆褲(kaidangku)と言い、「裆 dang」は股間の意味をし、「褲 ku」はズボンの漢字である。開裆褲を直訳すれば、股のあいたズボンである。
- 4、蠅燭包とは赤ちゃんを小さな掛け布団にくるみ、手足を動かないように紐で布団をきつくしばる風習である。これが赤ちゃんのがに股と風邪を防ぐのに役立つと思われている。
- 5、月子料理とは、産婦の悪露の排出や、健康回復のため、産後約1ヶ月間食べる、漢方を使ったスペシャルメニューである。
- 6、調査対象である5名の月嫂は筆者の先輩及び同級生であり、月子という極めてデリケートな空間(病院と雇用者家庭の両方を含む)における調査に対して、積極的に協力してくれた女性たちである。
- 7、G社は2003年に上海に進出した台湾の企業であり、社長自身が漢方及び現代の栄養学の知識を持ち、「段階式月子料理」を作り出した。段階式月子料理とは、一月の時間を4週に分け、それぞれの週に、産婦の身体的・精神的状況に合わせて、異なる食事を取るべきだということである。具体的に、第1週目には、油のある物を避け、子宮の収縮をよくし、補血のため、レバーなどの食材を食べるべきとされる。第2週目は腎臓など内臓の収縮・復元にとっての大事な時期であり、その週に、動物の内臓や山芋、キクラゲなどを使用した料理が勧められている。第3週目には、「氣」を補い、乳の分泌をよくするため、油のある食材(豚足、川魚、鶏、ピーナッツ)や通草と呼ばれる漢方薬が多く使用されている。第4週目には、産婦の体質を改善するため、野菜、果物をとることも必要とされている。G社の月子料理に最も多く使われたものは生姜と黒ゴマであり、この二つの食材は産婦の体を温めることができるとされている。
- 8、国家労働局及び社会保障局の配布した「家政サービス員(家政婦)国家職業標準(2000年)」によると、家政婦とは「顧客の要望に従い、各家庭において家事全般を担当し、児童、老人、病人の世話をし、家庭の様々な仕事に携わる人員」と規定されている。
- 9、上海市人力资源和社会保障局「2012年前十位职业培训项目分布」2013年9月19日取得 <http://>

www.12333sh.gov.cn/200912333/2009bmfw/ztfw/fwzx/zyxp/201301/t20130118_1144453.shtml

引用・主要参考文献

- エリックホブズボウム, テレンスレンジャー 編 1992『創られた伝統』紀伊國屋書店
- 落合恵美子, 山根真理, 宮坂靖子 2007『アジアの家族とジェンダー』勁草書房
- 落合美恵子 2013「ケアダイヤモンドと福祉レジーム」『親密圏と公共圏の再編成—アジア近代からの問い』京都大学学術出版会
- 王柳蘭 1999「食餌療法と薬草療法」『出産前後の環境—からだ・文化・近代医療』昭和堂
- 翁文静 2013a「中国都市部における伝統的育児道具・技法とその変容—股割れズボンとやり手水を中心に—」国際教育文化研究 Vol.13
- 翁文静 2013b「中国上海市における家事労働者の養成プロセスについて—月嫂(SAO)を中心に—」発達社会学研究 第5号
- 翁文静 2014「中国都市部における家政婦月嫂(SAO)の成立と発展—上海市を中心に—」国際教育文化研究 Vol.14
- 川田順造 1992『西の風・南の風』河出書房新社
- 仇朝東 2013『職業技術鑑定考核指導手冊—母嬰護理』中国労働社会保障出版社
- 張宏浩 2007「北京市“月嫂”从业状況的研究」『中国医療前沿』2007年第22期
- 周勁草 2002「中介喜添“新寵”“月嫂”走红社区—上海第一家专业化婦嬰服務社誕生記」『社区』2002年第11期
- 苏志鹏, 陈嘉瑜, 黄杏, 林柳青, 刘凌冰, 林洁莹, 杨进通 2013「广州市月嫂供需问题的研究及对策分析」『商业经济』第2013年第6期
- 小浜正子 2009「上海女性は帝王切開が好き?」『アジアの出産—リプロダクションから見る文化と社会』勉誠出版
- 坂元一光 2008「教育する衣食住—子ども生活文化論ノート」『国際教育文化研究』vol.8
- 坂元一光, アナトラ・グリシャナティ 2008「ビュッシュク育児とその再編—中国新疆ウイグルの産育文化の一側面」『九州大学大学院研究紀要』第10号
- 白水繁彦(編集) 2008『移動する人びと、変容する文化—グローバル化とアイデンティティ』御茶の水書房
- 徐安琪は 2004「孩子的经济成本: 转型期的结构变化和优化」『青年研究』
- 末岡浩 2012『成人看護学(9) 女性生殖器』医学書院
- 辰野千寿 1996『系統看護学講座(基礎6)』医学書院
- 趙嘉然 編 2006『職業技術・職業資格培訓教材—母嬰護理』中国労働社会保障出版社
- 長谷川まゆ帆 2004『お産椅子への旅: ものと身体の歴史人類学』岩波書店
- 平野健一郎 2000『国際文化論』東京大学出版会
- 前川啓生 2000『開発の人類学—接合から翻訳的適応へ』新曜社
- 松岡悦子 2009「産後が何より大事—韓国の産後調理院」『アジアの出産—リプロダクションから見る文化と社会』勉誠出版
- マルセル・モース 1976『社会学と人類学 II』弘文堂
- 三砂ちづる 2009『赤ちゃんにおむつはいらない』勁草書房
- 姚毅 2009「産後の養成坐月子—中国」『アジアの出産—リプロダクションから見る文化と社会』勉誠出版

ウェブサイト:

「金猪年」传说加剧生育高峰 沪月嫂月薪升至3600元」晨报視野 2006年10月21日付

<http://xwcb.eastday.com/c/20061021/u1a198319.html>

「龙年月嫂变“金嫂” 平均月薪升至8000元」和讯網 2012年02月14日付

<http://news.hexun.com/2012-02-14/138217800.html>